

第 3 回 駅まちデザイン検討会 議事概要

日時：令和 2 年 12 月 18 日（金）16:30～18:00

場所：パレスサイドビルディング 8 階会議室
（オンライン&オフライン（ZOOM）併用）

1. 開会・挨拶

【都市局街路交通施設課長より挨拶】

2. 議事

(1) 第 2 回検討会において出された意見について

【事務局より資料 1 に沿って説明】

(2) 検討会の今後の進め方について

【事務局より資料 2、3 に沿って説明】

(3) 駅まちデザインの手引き（素案）の検討について

① 第 2 回検討会での意見と対応方針

【事務局より資料に沿って説明】

② 駅まちデザインの手引き（素案）

【事務局より資料に沿って説明】

3. 意見交換

【駅まちデザインの手引き（素案）について、委員はじめ出席者間において意見交換。】

【駅まちデザインの手引き（素案）全般について】

○ 駅まちデザインの重要性として特筆すべきことは、「これからの時代は、車を中心とした社会ではなく、人を中心とした多様なモビリティ（シェア、自転車、MaaS 等）の社会である。その場合、駅に多様なモビリティが集まってくることになるから、駅を中心に都市を考えるべきである。」ということである。

○ 駅まちデザインの重要性の中で「利便性」「安全性」「快適性」はもちろん重要だが、「地域性」も必要である。歴史・文化・その地域が持っている場の特異性などがあって「駅まちデザイン」といったほうが地域のまちづくりにも溶け込みやすい。

○ 駅まち空間の共通課題に記載のある「移動円滑化」は、一般的に「バリアフリー」に用いられることも多いが、駅周辺も含めた面的なバリアフリーという観点を追記した方が良い。

○ 「駅まち空間」について議論するところで「駅」のことしか書かれていない部分もあったため、「駅まち空間」と「駅」「駅前広場」の話に分けて書くことに配慮する必要がある。

[駅まちデザインにおいて意識すべきこと]

- 駅まち空間と周辺市街地を繋げていくものは道路であるので、駅まち空間とまち全体をどのような道路でどのようにつなぐかについて言及する必要がある。
- 公共性の高い駅まちデザインの検討においては、多様な主体が連携する際に、公共団体がそれぞれの関係者のベクトル合わせを行うことの重要性を記載した方が良い。
- 駅まち空間の検討の中に、スマートシティのコンソーシアムを抱き込んで、情報発信等の機能を付加していくような動きがあると、従来の拠点ではなくサイバー空間の拠点となっていくための一つの結節点になる。サイバー空間の中の拠点はどこであっても良いが、あえてフィジカル空間である駅を拠点とすることで相乗効果が生まれる。

[駅まちデザインの進め方]

- 駅まちデザインの「計画・事業化段階」においては、「一体的なデザイン調整」というプロセスを経ることが重要である。
- 「計画・事業化段階」における機能の配置案の検討では、効果(ベネフィット)の比較があると良い。地価情報の比較、期待額の検討など、費用算出方法にも着目できると良い。
- 「都市計画への位置付け」について、駅まちデザインで考慮する施設と都市計画上の位置付けを整理した方が良い。
- 駅まちデザインにかかるプロジェクトを進めるための手法として先進的な手法や考え方を示すことで、開発事業者も新しいことに取り組むことができ、より実現性が高まる。